

観察場所（千畳敷北岸）

①千畳敷

粒が小さい砂岩でできています。

島の西側海岸にあり，熊野宮にまねてお詣りしていた。岩戸恵比須に奉納の舞を康頼入道が舞ったところといわれる。

武庫山の西870mの磯にある。磯部は幅10m，長さ50mあまりの平面になっている。その間は畳のふちのような直線の溝がある。



②船津頁岩層

淡い青灰色の細粒の砂岩で，雲母片を多く含みます。この砂岩中から，海に住んでいた貝の化石が多く見つかります。

この他にも，カニのはさみの化石が見つかりました。このことは，浅い海底でたい積したことを示しています。



※主な貝化石

名 前：ヒゼンマメクルミガイ

地層名：伊王島層群船津層

地質時代：新生代古第三紀漸新世

特 徴：小型で，ふくらんだ殻を持つ。殻表には円状の成長脈と無数の放射状の細脈がある。



名 前 : ヒゼンザルガイ

地層名 : 伊王島層群船津層

地質時代 : 新生代古第三紀漸新世

特 徴 : 比較的大型で、斜めにのびた卵形で、殻表には約 25 本の縦線があるが、成長線はほとんどない。



名 前 : カニのハサミ

地層名 : 伊王島層群船津層

地質時代 : 新生代古第三紀漸新世

特 徴 : カニのハサミの部分です。模様がはっきりわかります。



砂岩の中にあるツノガイの化石です。ツノガイの仲間の殻は一本の直管で、たいてい弓状に曲がり、前後両端は開いています。

巻き貝と二枚貝の両方の特徴を持っているため、分類上両方の中間におかれています。



名 前 : アゲマキの仲間

地層名 : 伊王島層群船津層

地質時代 : 新生代古第三紀漸新世

特 徴 : 横に細長くのび、両端は丸い。背側(写真の上側)は直線的なのに対し、腹側は弓状になる。



名 前 : ニッコウガイ科の仲間

地層名 : 伊王島層群船津層

地質時代: 新生代古第三紀漸新世

特 徴 : 横長の卵形で、平たく殻はうすい。殻表は平たくなめらかであるが、非常に細かい成長脈がある。



※砂岩中のノジュール

砂岩の中にある丸い岩石は、ノジュール(団塊)といいます。このノジュールを割ると、中に貝化石を多く含んでいることが多くみられます。

砂の中にたい積した貝殻などから、まわりにしみ出した石灰分がセメントの役割をして貝殻などを中心として固まってできたものです。



※ノジュール中の貝化石

この海岸を歩いていると、ノジュール(団塊)とよばれるとてもかたくて丸い岩石があります。このノジュールを割ると、中に貝化石を多く含んでいることが多いです。

写真のノジュールには、巻き貝の化石が含まれていて、その断面が見られます。



流水がけずった跡を示す



フナクイムシが木材に穴を開けた跡の化石